臺灣昌新報 夕刊

八月十三日

夕刊定価一部二錢

編輯兼發行人　佐々木　清
臺北市榮町四丁目廿二番地
發行所　臺灣日日新報社
基隆支局　臺中支局　花蓮港支局
臺南市開山町（電話一八五）臺南支局
高雄市入船町二丁目（電話一〇七）高雄支局
大阪支局　ニューカレドニア（内）大阪支局
東京市麹町區有樂町一丁目（内）東京支局

けふ八・一三の黎明 海の荒鷲群漢口急襲

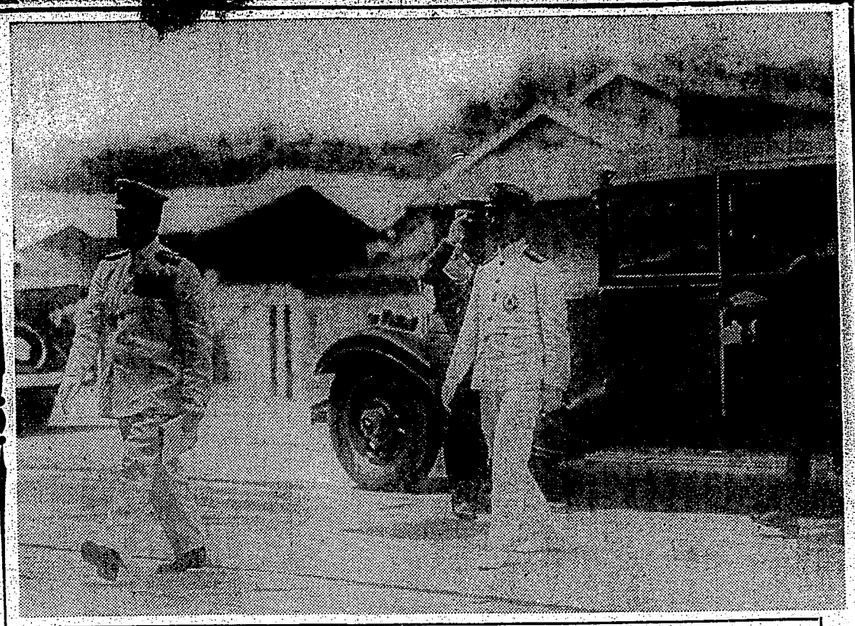
猛爆に凄愴紅蓮の焔

【〇〇十三日發同盟】一八・一三記念日の十三日我が海軍航空隊は黎明の漢口上空を急襲、曉の猛爆撃を敢行し漢口飛行場に於ては大型爆撃機二機逃走する遑もなく一機を爆破他の一機は完全に炎上し大空中艦隊は八・一三のこの日武漢三鎮上空を翼下に制壓悠々歸還した

武漢三鎮翼下に制壓

敵軍絶望のどん底へ

【上海十二日發同盟】十二日朝わが海の荒鷲に依る漢口大空襲は空前の壯觀なもので〇機に及ぶ艦隊の間に天地噴動武漢三鎮わが空軍に制壓された、漢口外人側の傳へる所によればわが空軍部隊は武昌の學生軍訓練場、南湖上空に於ける敵の兵舍並に〇〇機の格納庫に對し〇〇機を以て猛爆を加へ之から歸還の途中揚子江上空に於ける敵の〇〇機と交戰これを撃墜した、次で同部隊は揚子江上空を旋回しながら漢口上空に到着、同市の飛行場に爆撃を加へ殘敵を掃蕩し悠々漢口上空に到着



聖上陛下　海の荒鷲陣に幸行

天皇陛下には今次事變に際會し大元帥として於ける統帥を示し給ふ大海軍の威容を親しく閲覧し給ふべく海軍航空隊並に木更津航空隊に幸行あらせられたれらせらるる幸行の初に御寫眞は航空廠　(下圓局當)

傷痍軍人會臺灣支部
けふ發會式を擧行
總督、軍司令官が臨席

大日本傷痍軍人會臺灣支部發會式は既報の如く十三日午前十時半から台北鐵行社に於て挙行、日頃、台灣神社、支那事變等に於て勇名を馳せた傷病の勇士數名を始め會員の外に、來賓として小林總督、古莊軍司令官、森岡長官、田中參謀長、藤井警務局長、石井台北市尹、福岡憲兵隊長等の文武官及び數百名

開會の辭

にて始められ一同、島原會長、國歌奏唱の後支那事變に因る戰傷病者に對して一分間の默禱を捧げ次で谷脇支部長の支部設立の經過報告、森谷支部長の式辭あつて、本部會長代理として來合した古賀少將より支部旗の授與、並に會長式辭の代讀あり終つて來賓として小林總督、古莊軍司令官、福岡憲兵隊長、石井市尹、田中參謀長、藤井警務局長、森岡長官、馬公要港部司令官、島田文教局長、各當局者、澎湖廳長等の祝電

披露あり

て小林總督の發聲にて大元帥陛下の萬歳を三唱、閉會に先立つて前段各當局長に對する感謝決議並に島内陸海軍傷病兵に對する慰問電報發送に關して後香過事より酒宴に移つたが會員一同異常なく握手を以て散會したが本日迄に入會申込の會員數は四十八名で今次發會に依り時來新たに加入する會員は相當數に上ると

見られ

て居るが支部役員は島田文教局長、田中總軍司令部合支部長、軍司令部附植田大佐、澎湖海軍武官、藤井警務局長が支部長、副支部長には總軍司令部附大佐、現役海軍大佐の理事、此外臨時一名、準備員四名、其他四名となつて居る

支部長式辭

本日茲に大日本傷痍軍人會臺灣支部の發會式を前ぐるに當り總裁宮殿下の御下賜に多數英靈各位の御盛德を偲うしたるは本支部の最も感激とするなり

惟ふに我國民は夙に忠君愛國の性を以て國家の興隆に盡瘁し國運の伸張に貢献し來つたが、殊に皇軍將士の忠勇義烈は、古今に比類なく、其の赫々たる武勳は、實に我國民の誇りとするところである

然るに我國は未曾有の聖戰に當り今や我國民は擧國一丸となり、擧げて皇軍の後援に努めつゝあるが、此の時に當つて傷痍軍人諸君が、其の負傷の爲に、或は不具となり、或は病み、或は戰歿者の遺族となつて、國家の爲に盡瘁せられたことは、眞に感激に堪へざるところである

我が國民は、此の事變を以て、東亞の安定を確保し、東洋永遠の平和を確立する爲には、如何なる犧牲をも敢て辭せざるの覺悟を以て、擧國一致、此の聖戰の目的達成に邁進しつゝあるが、此の時に當り、

家庭と婦人

榮養食の配給で 素晴しい健康増進

京都西陣九十八工場の成績

臺灣でも共同炊事を實行せよ

銃後　の守りを一層強くする為に、國民體位の向上といふことが強調され、榮養食の配給が各地方に於ゝて榮養をあげてゐますが、最近、京都西陣織物組合の榮養配給の成績が調査された處、次の如く榮養自パーセントで榮養上非常によいことが證明されました。この配給所で九十八工場、一千五百二十人に三食二十五錢で榮養食を配給してゐるのですが、この食費も原料の一日平均三十錢よりうんと割安になつてゐる上、勞働生産からも非常に有利なことです

△

まづ一　體重についてみると、十二年一月、二月の四回にわたる調査結果は十三貫三百七十匁より同百二十匁、同九百九匁、同五百五十匁と順調に增加、配給を受けぬ十場は第一回百五十三貫二百匁から第三回では僅かに一分二厘しか伸びてゐない事をみても榮養效果が如何に著しいかゞ判ります。

今一日あたりの一種つゞ摂つた熱量で換算すると、二年には四十四萬七千五百となり、二十歳から六十歳の一般勞働者の平均攝取量三千八百匁、同八百匁、同九百匁、同九百二十匁といつた標準に比べると非常な相違です

△

身長　では、昨年一月、本年二月の三回調査でこれまた百八二十五厘、百八十二分四厘へと榮養效果が如實に現はれてゐます

△

更に　大切な能率に關しても、十二年十一月以降一年間の職工一人一日の出來高指數は三百三十三・七匁だつたが、配給後は三百四・二匁に飛躍、また二の能率增進の生產額の上にかゝる原料、燃料、電力、機械、工場、乾燥場、食堂、便所、炊事場、配給所、組合事務所、託兒所、病院、理髮所、浴場、共同購買所、共同作業場、共同炊事場、共同託兒所、共同病院、共同理髮所、共同

江戸桃花陣 (114)

海音寺潮五郎作
富永謙太郎畫

熊狩 (三)

人の左に避るのは、咳き打ちを警戒するからである。警戒を怠るものではなければ、するはずのものではない。一國に主人のことのみが氣がかりで、その他のことには、まるで無關心で歩いてゐた兵衛の心に、それは一点の火をつけたやうなものであつた。氣をひきしめながらも、足の運びは少しも変へずに、兵衛はじろりと視れを流し目に見た。

相手は、少しもそれに氣づかない。相変らずの高鼾の声で夜陰の靜寂を破りながら歩いて行く。武藏野には珍らしい、いつ谷となるともなく大股のうねりやうにゆるやかに地勢の起伏してゐる高地を下りにかゝつて、左右の闇が水田に変つて、蛙の鳴き声がやかましくなつた。

「あつ！」

遠れの男が小さく叫んでよろめいて、ぱつと提燈が消えて、闇をつまされてもわからぬ暗があたりをこめた。

「ちえつ、草鞋の緒が切れちやつた」

男はかがみこんで、やいたが、兵衛が歩いてゐるので、門はまだ。

「待つてゐる」

「否ゝて、兵衛はすばやく仙工を変へたが、それが早かつたか、お御代が遅かつたのか、轟然たる銃の音が闇をゆるがして響いた。

「むーツ」

闇の男がかたつた二歩四歩たぎりて、闇黒との木の下闇はしーんと靜まり返つた。

——やがて、道の右への杜の下から、もつくりと人影を上げた者があつた。

「目撃」

先刻の若者の声だ。

「野行はたい。門を開いて、」

「目撃」

た。

「よ！」

門が開かない。つと走り出して来た闇の手には光遥ると見るや、一つの影は脱兎の如くに向けてつてゐた。

「たしかその辺に」

「……居ねえぞ」

「油断しちやいけねえ。あたゝにして武所を外れてゐることも……」

「おお……」

一ケ所に集まつた人影が、ものに驚かされたやうにものゝしく四方に開かうとした時だつた。

「動くな！」

木立の中から大喝した者があつた。

向兩國の垢離場 (下)

江戸情緒ゆかしき行事

三田村鳶魚

また殺傷はない。

若者は二度呼んだが、依然として返事がないと見るや、ひらりと道に跳び上つて、びーと口笛を吹いた。

すると、林の中、今二人が下りて来た駕の上、堤の下から、駕舁が駕が七八人出て来て、駕の口をしめるやうに、じわくと詰つて来た。

「首は？」

「首はダイか」

「うまく行つた。ごねたやうだぜ」

一團に黒黒な人影である。誰かが誰とも見わけはつかない。大抵に眼をそりつけるやうにして言ひ廻つてゐるが、

「どこだ。きやつの倒れたところは？」

「あつすこし、そちら、駿にようたゞり……」

「はてな」

宿への帰路安心の帰りを待つてゐるやうに、急ぐくと四ツ谷（現在の宿が、ここから安心で通る）で、はじめて息ふた時、すいたらしいと思ふたが国境に縁のいと早、めぐり〳〵て大山も、石燈籠までの引合せ、思へばほんに、南無帰依頂礼、なむまいかなではないかいな、色に命もやりばなし、大和人形を大和屋が正内ふしてやつてくりよ、親がしかるが、折檻しやうかい、ままよのふられ、ほれた腹にふられたり上か、いかさかさうと出す船は、飛いんは丸、籠頭は狐、ヤットコセ、汗かいて、しよんなくれ、若い時や一度ない、そのほでなければ出物は喰れぬ、しよんなくれ、おつそろしいではないかいな、あゝ頭のかけなかし、そこが江戸ツ子、むらさきと、いさみは次によるならん

是が例の山騒りの交初で、山騒りを許しといへば大山騒り、彼等が変容の姿を手帳に取能へても此くらるなので、業師すれば始末がつかない、江戸時代の登山者中で、一番評判のよくない大山まいりも、御山の酒もまでは、平生と違つて、無精生を停止してゐた、実に彼等は無垢に感まれて、何とも女人込みの川水浴場にあつた間の長い長い開催がなかつた、今日でも若い人達の行状を考へる前に、無いのか有るのか、それ決着させなければなるまい、無いと言つてゐるところへ、敢へて無理だらう、若し無いでもなく、有るでもなく、中アラリンなら、昔の騒ぎ八さんの大山参りの片鱗だけの行状をも期待され、此処の××にしても何の意味なのか明瞭でない、自瞰にしても誰〳〵どころがないから瞰正でない、向国の垢離場と言語に絶して開き流すに、などと申しては済しなかつた。

壯烈を極めた 臺灣軍犬美談

傳令犬アルドー物語

（一）

宮本佐市

——去る六月廿四日より廿六日の祭例にかけて行はれた無名橋部隊の香日攻略戦の陰に、敵地の為に二度の自由を完全に縛られ、絶えず生死の間を彷徨しながらも、最後まで任務を全うして、無名橋部隊

（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十三年八月十四日（日曜日）　臺灣日日新報　第一万三千七百九十四號

臺灣日日新報

日本唯一夕刊共十二頁
賣木々佐　人行發兼編輯
臺北市北門町二丁目四番地
臺灣日日新報社　所行發
定價（本紙）一部金五錢　一ヶ月金壹圓五拾錢　三ヶ月金四圓五拾錢　半ヶ年金八圓　一ヶ年金拾六圓（日本國內及支那滿洲）
廣告料特別一行十五字　壹圓　同二行目以下一行毎に金拾錢　廣告面二段抜一〇行以内金壹圓五拾錢　同二行目以下一行毎に金拾五錢　三段抜一〇行以内金貳圓　同二行目以下一行毎に金貳拾錢
電話編輯局（代表）三二〇二番　營業局（代表）三二〇一番　印刷局（代表）三二〇三番

社說

吾が空軍の威容と眞價

"渡洋爆撃"一周年に當りて

一

わが航空隊が、今日世界に誇示の眼を以て見直されてゐることは既に云ふ迄もないが、しかし他の大國を世界各國をして驚嘆させるに至らしめたのは何であるか。今次戰線による兵數航空隊の發揮したる活躍が、如何に其眞價を示したからであつて、それも唯かにこの一年來のことである。殊に、昨年八月十四日から吾が渡支航空隊が、遙々海洋を渡つて支那大陸に飛び自由自在にその威力を施設又は敵飛行場等を空襲し、多大の戰果を收めてから、急速に日本空軍の存在は、國天の霹靂の如く國の內外に百つ國際の夢を破たしめた。國民は"これなら戰"と叫んだ世界強國は、わが國空軍の上に何けられた期待を裏切るとして收めて來た。支那事變に於ける日本空軍の大飛躍が、これを雄辯ならしめたのである。

二

而して、國民政府が歐米國から買ひ集めた精鋭機は、その操縱のためのの外國人飛行家と共に陸にヨリをかけて日本との空中戰を行機としてゐたのだ。しかし結果に於外でおつて、空中戰では最早の優勢機を次ぎ〳〵に叩き落し、その補充に關起となつた國民政府の努力を既目に、今日では殆ど空に跡形もなくなつてゐる。

三

今や國軍の戰線縮小も中支戰線に在りて目覺ましい活躍を續けて居り、その飛躍に於て既に部の一大期を劃してゐる。これに海軍航空隊の協力を見るあり、今後廣範圍が、何處に進れ聽れようと、假令が其目を破ける限り斷々乎として空より壓迫の鐵彈を喰はさずには措かぬのである。それは當然なると、實證なると、既明なると迄は如何ぬのである。吾等は、所介行が當時當初において日本空軍の翼力を輕らず、必ず支那空軍を以て日本軍を壞滅すべしなる高言を吐いたとの說を聞き、今さら嘆敗吐に堪へぬと共に、吾が國空軍の樣たる迄に到し、渡洋一周年の今日を記念しつつ國民的感激を禁じ得ないものである。

國旗惡用に標識に付
第三國大公使に要望
去る九日谷公使から

【上海十二日發同盟】支那側の第三國旗惡用は遂次に著るしく又第三國權益侵害の所在明瞭を缺くものが多く我が作戰行動に支障を來しつつあるに鑑み谷公使は當局に對し左の如く要望を爲し、同時に日本側軍艦よりも上海領事團に通報した

一、第三國旗は絕對に之を敵性より之を航空機上より識別すること殆んど不可能なるを以て今後は一國旗國と密接なる關係の下に艦船の所在を通知且つ適當なる通報あらんことを希望す、尙識別困難なる第三國船は支那の作戰地區に行動せざる樣要望す

二、第三國旗を掲げて敵性行爲に出でざる樣取締を爲すこと

三、第三國權益侵害の場合は其の都度速かに通報あらんことを要望す

右は第三國大公使館のスローガンの下に支那の武裝保衛力を撲滅する爲あらゆる手段方法を講じて支那の抗戰意志を破碎せんとしつゝある日本側の態度に對し同種の申入れをなしたもので、谷公使は上海に於て支那側から提出された第三國旗惡用の事例十數件に對し一々之が眞僞を調査の上これに對する措置を講ずる旨を約したが、今回の申入れは九月一日以來の第三國旗惡用の事例を擧げ之が嚴重取締を要求したもので、第三國旗惡用の事例は

一、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へたるもの

二、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

十、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

十一、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

十二、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

十三、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

十四、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

十五、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

十六、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

十七、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

十八、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

十九、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

二十、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

二十一、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

二十二、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

二十三、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

二十四、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

二十五、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

二十六、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

二十七、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

二十八、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

二十九、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三十、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三十一、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三十二、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三十三、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三十四、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三十五、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三十六、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三十七、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三十八、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

三十九、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四十、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四十一、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四十二、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四十三、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四十四、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四十五、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四十六、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四十七、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四十八、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

四十九、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五十、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五十一、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五十二、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五十三、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五十四、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五十五、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五十六、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五十七、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五十八、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

五十九、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六十、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六十一、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六十二、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六十三、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六十四、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六十五、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六十六、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六十七、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六十八、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

六十九、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七十、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七十一、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七十二、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七十三、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七十四、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七十五、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七十六、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七十七、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七十八、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

七十九、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八十、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八十一、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八十二、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八十三、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八十四、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八十五、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八十六、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八十七、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八十八、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

八十九、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九十、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九十一、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九十二、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九十三、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九十四、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九十五、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九十六、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九十七、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九十八、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

九十九、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

百、第三國旗を掲げ我が軍艦に對し攻撃を加へんとしたるもの

防衛に名を藉り
公然と破壞工作
狂的な保衛武漢運動

【上海十二日發同盟】漢口來電に依れば國民政府當局は最近の如く國民に對し何回目なるを問はず日夜空襲に動搖し戰意を喪失してゐるを看取し敵機襲を利用して一般民衆に對し防衛の名に藉口し武漢保衛の爲と稱し全く敵側の宣傳に乘ぜられ全く敵國となり、これが爲め既に數十萬の要人連を脫出せしめ、敵側の宣傳を裏書きしつゝあるが如き狀態にあ

政府が抱く 米穀配給機構 改革案の全貌

改革點

を挙げてみれば

一、協同組合主義の徹底的強化
一、政府が必要と認めた場合は一切の米は公設機関若しくは機関を通して行い得るやう強制組合に強力なる自治統制権を附与し、產地仲買人、営業移出商等の資格的取扱を禁止し、極力、英業組織の簡易化に努めたこと
他一切の投機的要因の排除
一、米の集積、配給の合理適正化において手數料公定化の普を挙ぐること
一、生活困難なる者に對する二重價格制の採用
一、代用食（裏麥）に對する生產販賣統制
以上の如くで初めわが米穀政策に一大轉換を劃するものである。以下順を追うて項目毎に解説を加えることにしよう

（一）米穀の蒐集販賣組織

（1）市町　村長、農會長、產業組合長、農會副會長をもつて組織する市町米穀配給調整委員會を設置し、その下部組織として農會、產業組合、農事實行組合等を以て組織する農事實行組合聯合會を設置し、この聯合會に強制力をもたせる以下、產業組合といえども米穀販賣業務關係事項については農會の監督を受けて之に當り、それでも滿足な活動が出來ない場合は、縣參與官は農事實行組合が代行するといふ順序になる

（2）產組　が米穀の販賣統制上必要な場合は員外統制を認め、當該區域内の地主及米作農民の凡ての販賣米を一手に無條件委託せしめる

（3）一方　政府に國家總動員法に基き產組、農會實行組合等に對し米穀の販賣權、加工、販賣に關し米穀配給統制上必要な命令をなす

（4）單位　組合の販賣米は全部道府縣聯合會に無條件委託をなし、聯合會は同聯合會において販賣するも米穀商組合員に對し販賣し得る外移出米は凡て全販賣に無條件委託をなす、但し順序の規定に拘らず聯合會が適當内地團體に一括販賣することも出來る

（5）產組　が米穀の販賣統制上必要な場合は員外統制を認め、當該區域内の地主及米作農民の凡ての販賣米を一手に無條件委託せしめる

（6）全販　聯は指定米に關し獨占的に販賣業務所並に販賣店において販賣するほか必要を認めた場合は特に產地において全販聯主催の下に自由入札販賣をなすことも出來る（之は產地當局又は酒米販賣等の特殊の場合）但しこの場合賣主の委ね先何によつては農林省の指示に從い聯合會を指名し、米穀の地方的偏在を是正する（大正七年の米騒動は全く米穀の地方的偏在に起因してゐたことを想起せよ）

（7）政府　は國家總動員法に基き、さらに國家總動員令に基き、さらに必要あらば、米穀の生產及販賣に關する一切の事項に關し、必要な命令をなし得ることとする

（二）米穀統制法の改正

現在政府は米穀統制法第四條の規定により當業移出米及消費地より內地に移出する米穀の數量を月別に指定したらしめる為出廻期後八月以降十月において一定の條件のもとにおいて數量をなすことが出來る建前となつてゐるが、これを改正していつたん時でも政府の必要に應じ一定の限定に制約されることなく、買入數量をなし得ることとし米穀市場に對する國家統制の一段の強化を計る

（三）生活困窮者に對する二重價格制の採用

之は有馬農相の言ひ分で「生活に困窮する者には特に安い米を與えるといふのである、然し問題は誰を困窮者とするかの認定にあるが、現在の配給機構の下に於ては困窮者の認定は比較的容易であり、有馬農相も「最高價格制實施の方針は少しも變更しない、この點は誤解のないやう願ひたい」と言明してゐる、右の如く米穀年度の最高價格は昨年十一月以來本年十月迄の物價の動向に從つて漸次せり上つて來る以上最高、最低の値巾は今年より更に一段と縮小するものと見るほかはない

そこへもつて來て前述の改正統制法の實施となれば、從來のやうに米價の變動を期待するなどは全く米價安定に逆行するものであり、從つて米穀の取引は從來の如き投機的なものは全く影をひそめ、從來の如く米穀商の暴利を貪ることは出來ないこととなる

（四）單價

組合の販賣米は全部道府縣聯合會に無條件委託をなし、聯合會は同聯合會において販賣するも米穀商組合員に對し販賣し得る外移出米は凡て全販聯に無條件委託をなす、但し順序の規定に拘らず聯合會が適當內地團體に一括販賣することも出來る

（五）產組

が米穀の販賣統制上必要な場合は員外統制を認め、當該區域内の地主及米作農民の凡ての販賣米を一手に無條件委託せしめる

（六）全販

聯は指定米に關し獨占的に販賣業務所並に販賣店において販賣するほか必要を認めた場合は特に產地において全販聯主催の下に自由入札販賣をなすことも出來る（之は產地當局又は酒米販賣等の特殊の場合）但しこの場合賣主の委ね先何によつては農林省の指示に從い聯合會を指名し、米穀の地方的偏在を是正する（大正七年の米騒動は全く米穀の地方的偏在に起因してゐたことを想起せよ）

（七）政府

は國家總動員法に基き、さらに國家總動員令に基き、さらに必要あらば、米穀の生產及販賣に關する一切の事項に關し、必要な命令をなし得ることとする

1、本調査は昭和十二年九月一日現在の實績に付調査する
2、地方廳は本調査の結果を九月末日迄に本省に報告すること
（五）麥類の生產販賣統制
米穀に對する國家統制の強化は他の代用穀物に對する調整を促進する譯にもあり從來米と對比して一定の振合で價格を調整するの要もあるので生產販賣に對し適當な措置を加へる

1、本調査は昭和十二年九月一日現在の實績に付調査する
2、農家の保有米は過剰地方の實情
3、農家の利用狀況
4、農家の消費量
5、農家の米以外の穀類の狀況
6、其の他
調査方法
本調査は之を地方廳に依頼し米穀統制所をして其の管內の調査に當らしむることとする
一、調査時期及調査期日
本調査の調査時期及其の期日に對する報告期日は次の通りとす
ものとす

八月一日現在 臺灣殘存米

二百八十八萬八千餘石

前年より 七分五厘增

【東京十二日發同盟】本年の米作は九州、北陸道の二部及び外地を除き一般に各地風水害、病蟲害の發生に加へ、關東、東山地方の水害等から前途悲觀をなさるものがあるが、而も農業關係に基く壯年勞働力の補充と共同作業と組織の機械化並に肥料の合理的增施による收穫の增加は方に一つ夢み得ない狀態に在る一方米穀年度の公定最高米價（第壹二百四〇錢は政府の物價調節制方針もあることゝ相俟つて米穀の公定價格の據置問題は一層深刻さを加へるであらう、而して農村經濟の安定價格の據置、國民主食物の價格の安定と相俟つて政府の米穀收納の增加に付き協議をなす

一、生活困難なる者に對する二重價格制の採用

一、代用食（裏麥）に對する生產販賣統制

以上の如くで初めわが米穀政策に一大轉換を劃するものである。以下順を追うて項目毎に解説を加えることにしよう

（一）米穀の蒐集販賣組織

（1）市町　村長、農會長、產業組合長、農會副會長をもつて組織する市町米穀配給調整委員會を設置し、その下部組織として農會、產業組合、農事實行組合等を以て組織する農事實行組合聯合會を設置し、この聯合會に強制力をもたせる以下、產業組合といえども米穀販賣業務關係事項については農會の監督を受けて之に當り、それでも滿足な活動が出來ない場合は、縣參與官は農事實行組合が代行するといふ順序になる

（2）產組　が米穀の販賣統制上必要な場合は員外統制を認め、當該區域内の地主及米作農民の凡ての販賣米を一手に無條件委託せしめる

（3）一方　政府に國家總動員法に基き產組、農會實行組合等に對し米穀の販賣權、加工、販賣に關し米穀配給統制上必要な命令をなす

（4）單位　組合の販賣米は全部道府縣聯合會に無條件委託をなし、聯合會は同聯合會において販賣するも米穀商組合員に對し販賣し得る外移出米は凡て全販聯に無條件委託をなす、但し順序の規定に拘らず聯合會が適當內地團體に一括販賣することも出來る

（5）產組　が米穀の販賣統制上必要な場合は員外統制を認め、當該區域内の地主及米作農民の凡ての販賣米を一手に無條件委託せしめる

（6）全販　聯は指定米に關し獨占的に販賣業務所並に販賣店において販賣するほか必要を認めた場合は特に產地において全販聯主催の下に自由入札販賣をなすことも出來る（之は產地當局又は酒米販賣等の特殊の場合）但しこの場合賣主の委ね先何によつては農林省の指示に從い聯合會を指名し、米穀の地方的偏在を是正する（大正七年の米騒動は全く米穀の地方的偏在に起因してゐたことを想起せよ）

（7）政府　は國家總動員法に基き、さらに國家總動員令に基き、さらに必要あらば、米穀の生產及販賣に關する一切の事項に關し、必要な命令をなし得ることとする

1、本調査は昭和十二年九月一日現在の實績に付調査する
2、地方廳は本調査の結果を九月末日迄に本省に報告すること
（五）麥類の生產販賣統制
米穀に對する國家統制の強化は他の代用穀物に對する調整を促進する譯にもあり從來米と對比して一定の振合で價格を調整するの要もあるので生產販賣に對し適當な措置を加へる

近き將來に於ける 動力界の革命!!

石炭の燃燒エネルギーを 直接電力に變へる事が可能

現在行はれてゐるやうに蒸氣を媒介とせず、直接に石炭の燃燒エネルギーを電力に變へることが出來たら、といふことは、なかゝ昔の發明家たちの夢想であつたし、かるに今その夢想は、恐らくそんなに遠くない將來、すなはちわれわれがまだ生きてゐる間に實現されもであらうといふ眞實しやかな海の向ふのアメリカのウエスチングハウス會社の技師、マーヴィン・スミス氏によつて發表され、一大センセーションを全世界に捲き起してゐる。

×

もともと動力の生産に於けるこのやうな革命は、燃燒の結果生ずるイオン化物質（それは蒸氣らしい姿で運動してゐる）電氣的性質を利用して電氣エネルギーとしてはたらかせることにさへ成功しさへすれば實現出來ることなのであるそしてその成功の曙光には現在のやうな通りくどいやりかたの如き、先づ蒸氣を起し、その蒸氣でスチームタービンを囘轉させ、その上でこの機械的エネルギーを、發電機を囘轉させつゝ電力に變するといふ方法のかいかに舊式な效率の惡い方法であつてしまふことは云ふまでもあるまい。

×

ともかく、極く最近までは發明家のかゝる夢想もその實際化からはまだ〳〵遠かに遠いものと考へられてゐたが、しかるに物質の基礎的性質についての知識からは電氣機の助けを借らずに直接燃燒ガスの力學的エネルギーから電力を造り出す發電が完成されてゐようといふことさへも大體が事實とされてゐる。

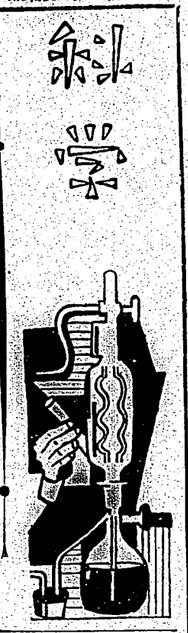
×

燃料から直接電力を造らうといふことは、つまり非常に效率の良い方法で、所謂「ガス發電」を用ひることであるこれはつまり燃料、例へば天然ガスが酸化する際に發生するエネルギーを利用してのときの發生するエネルギーを電氣エネルギーとして振へようとするものである。

×

まことに來るべき時代は樂しいわれわれは定めし一年に、地上のどのやうな場所でも春の溢んだ大氣を滿喫出來るならう。空氣が電氣によつて淸淨にされ消燈されてしまふからである。濕度や溫氣の調節については今更云ふまでもないことである。

石油ランプが自然ガスマントルによつて時代後れのものとなり、そしてガス燈が電燈の出現によつて壓倒されてしまつたのと丁度同じやうに、今日の自然燈は更に確やかしいガス光燈によつて取つて代られる時が來るのも遠い將來ではないかも知れない。



神祕の國 ——蒙古人の家庭生活

德王は範を示して一夫一婦制

醫學博士　諸岡存

洞窟生活の實驗

文化生活からかけ離れた穴居生活が、現代に如何なる影響を與へるかを、身を以て實驗中のシカゴ大學の學者たち

鐵の貧鑛處理法

英國の一製鐵業者が成功

鐵は現在の文明の基礎をなすものであるが、その鐵の原料である鐵鑛石は、地球上に無盡藏にあるものではない。

現に報じられた通り、內閣直屬の資源局と山西省の北部、チャハル省から併せて蒙古國が成立して德王が統治を續いて、新興國の經營に當つてゐる事實とも、關係の關係をもつに至つた。

一體この新興國蒙古とはどんな國か、その住民の生活狀態特に家庭生活は如何なる風であるかは吾人の知りたい興味ある問題であるが、今度、昌平署長諸岡存氏をかねて蒙古各地を訪れ親しく德王とも面接して、蒙古族の生活を觀察研究して歸京した醫學博士諸岡存氏にお土產話を伺ひました。

×

蒙古は神祕の國、不思議な國とは大方の人が考へてゐるやうですがこれは宗教の關係から來るので、蒙古の宗教として最も勢力を張つてゐるのは、喇嘛教で、この國の文化は總て、この喇嘛教が中心となつてゐるといつて過言ではないでせう。そしてこの喇嘛教には戒律といふのがあつて、一般人には公開せず、ごく嚴重に蒙古人だけに布教されてゐる關係上、外國人が見れば何か神祕がある神祕的な國として想像されてゐるのです。

しかし、この喇嘛僧はその數が增加してから次第に堕落の傾向が出來、個人と孤して、多數の婦女子を誘つておくので、一つの女はかり の部落が出來てゐるのが、今度への巨大な鐵鑛石を發見したばかりでなく、自國內に於ける鐵鑛石を發掘しなければならないゆる場所に於て產出する鐵鑛石の上に一大光明を與へるものであるだらう。

◇

1 近、現在まで捨てゝ顧みられなかつた鐵鑛から、鐵分を選鑛に適した鐵鑛を探して安價に造り出すことに成功した。それは磨ら溶鑛爐作業中には、鐵石の稀なる燐酸物質分を除去することなく、別の工程中に化學操作によつて、これが除去を計つたものである。

2 くして溶鑛爐操師たちはなどに鐵滓することなく、ゆつくり出鐵時も出來ようといふわけだし、またコークスの節用や、出て來る鐵滓を最小限度に止めたから最大限の鐵鐵を生產することが可能となつた。

3 の方法は國內の多數の鐵石に必要と考へられ、さもなくして普通の製鐵方法によるときは、殆んど高品位の鐵石からの製鐵と同じ位の費用で生產を行ふといふことは其處にもつかないことである。

4 量分の除去に際した鐵鐵を完したタンクの中で

健康相談

脫腸治療に要する費用

問 まことに恐れ入ります、一寸伺ひ致しますが本年五才になる家の男の子が先天的脫腸を患ひ脫腸帶をかけさせて居ますが何分活潑で困りますから思ふ樣に診りません、診察して頂いた先生は殺菌へ行く前に手術をしたした方が良いでせうと言はれましたが赤十字又は大學病院で手術を受ければ入院料手術料等を合してどの位かゝりませうか、入院日數は何日間を要しますか、又手術は何時頃するのがよいでせうか、それから手術をする迄脫腸帶をかけさせて置いた方が良いでせうか、思いでせうか、まことに有みません が右の諸問に就き御教へ下さいませ（栃木縣O生）

答 脫腸の手術は、勿論功時では全身的な抵抗も强くて又手術後の經過的な處置が困難である等の理由から行はれず、就學前、主に五、六歲から七、八歲の間に行はれてゐます、赤十字の手術料一十円前後、入院料一日一円二十錢、附添料一日七十錢乃至九十錢、附添看護婦で手術料三十円、入院料三乃至四十錢、食費一日六十五錢、二乃至五錢、入院日數六週間と見て費用合計九十円見當です、脫腸帶の可否は醫師の診斷如何に依る事ですから安心に從ふのが賢明かと思ひます（S生）

貧血 結核 胃腸 強化促進 治療豫防

精肝末

錠劑

服み易い肝油精劑　肝臟牛胆汁配合　發明特許

三〇〇錠 一、〇〇〇錠 二、〇〇〇錠 一、〇〇〇錠 二、〇〇〇錠 一、〇〇〇錠

△他に好評あり

「新発賣藥本」進呈

發賣元 藤澤友吉商店

大阪市東區道修町 東京日本橋區本町 京城府西小門町

NK1315

ロバアト

專賣特許出願中

躍進……非常時日本の爲に優良なる國產洗油液出現

長期戰時體制下に於ける日本の資源缺乏を叫つ時これが確保に最善の努力を拂ふ事は云ふまでもないが、凡ゆる物資の消耗を節減する事も亦重要性を持つて居る特に生產能力に極度の不足を告げつゝある機械類の損傷を防ぎ、その壽命の永續を研究する事は資源の獲得以上に必要な問題である。この意味に於て從來の洗滌發油や洗石油より遙に優秀な性能を有する國產洗油液「ロバアト」の出現は非常時日本の一大福音である。「ロバアト」は今日既に陸海軍で洗油代用品として採用されるに至つた。この際民間機械工業界でも率先使用し製作能率の向上を圖る事は國策に副ふ重要な使命と云ふべきであらう。

(1) 絕對に引火しません
(2) 使用目的に依り稀釋に水で稀釋出來ます
(3) 汚油除去は「ガソリン」より相違いですが仕上りは同樣です
(4) 絕對に酒を生じません
(5) 機械工場で手や肌を荒しません
(6) 如何なる金屬鑛金にも絕對に腐化なく安全に洗滌出來ます
(7) 惡臭なく洗滅物を汚染する點がありません
(8) 本液で使用した洗淨布（ウエス）は發液で洗液後水洗する次で完全に再生されますから繰布節制下にて經濟の經濟です
(9) ロバアト入船舶は海水、硬水に、凡そ十倍に稀釋して性能に變りありません
(10) 特性鑛油、瀝靑、植物油、鰮油、リノリユーム等如何なる油脂の汚れも洗滅出來ます

主なる用途

各種機械工業、化學工業、自動車工業、自轉車工業、艦船機關、甲板洗、各種兵器、航空機工業、紡織機械發電所、變電所、各種電機工業、汽車、電車、自動車漁船、醫療器、製材工場、鑛樹脂防止、其他一般機械使用工場等

販賣元 ロバアト化學工業研究所
「洗滌液」ロバアト發賣總代理店
佐土原商會本店
盛北市大和町四ノ八 電話長二六〇四番
高雄出張所 高雄市栄町一ノ一 電話三〇八七番

ヒロマチへ

生きた生肌なら
生きた化粧も意
ひのまゝ！夏は
スツキリ材料節
約・輝く素肌・健
康な肌・時代を擔
ふコロン美容！

40セン　63セン　95セン

HECHIMA COLOGNE

東京 日本橋
ヒロマチ 近江 商會